

(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は持ち直しの動きが緩やかになっている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい。

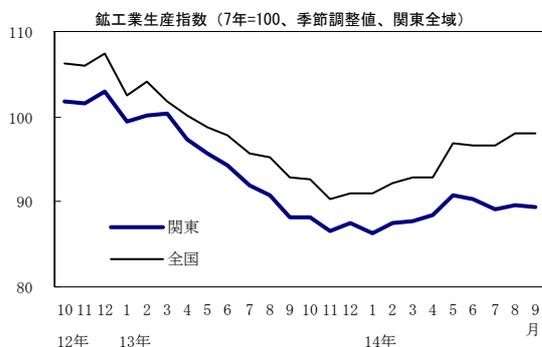
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 14 年 8 月)	今回 (平成 14 年 11 月)	
総括表現	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きが緩やか	↓
鉱工業生産	増加傾向	おおむね横ばい	↓
住宅建設	おおむね横ばい	緩やかに減少	↓

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。(関東全域)

電気機械は、デジタルカメラ、DVD向け部品や半導体、電子部品のアジア向けの外需が好調だったものの、パーソナルコンピュータの夏モデルの販売不振や4～6月期が好調であった反動などから、7～9月期は前期比で減少した。化学はIT関連に一部持ち直しの動きがみられる。一般機械は工作機械が内外需ともに弱含んでいるものの、半導体製造装置の緩やかな回復などから増加している。輸送機械は輸出を中心に好調なほか、内需でも新車投入効果がみられ、堅調に推移している。

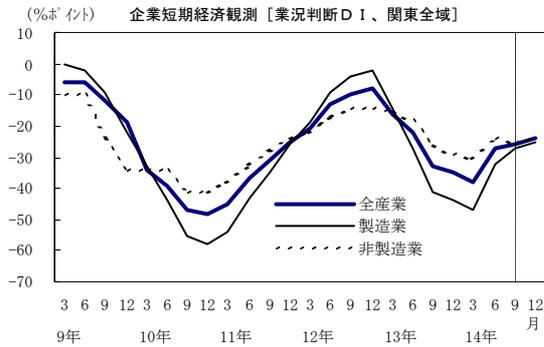


域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

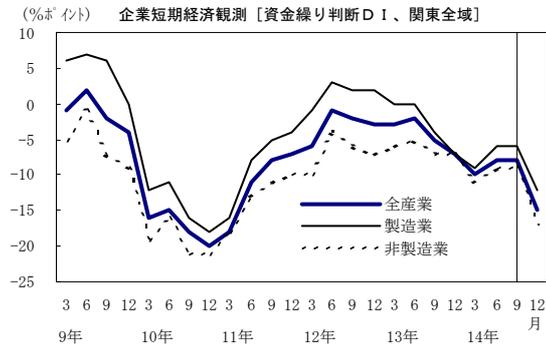
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4～6 月期	7～9 月期	7～9 月期	7～9 月期
電気機械	23.6	6.1	▲3.3	▲3.5	0.5
化学	13.2	1.3	1.8	1.0	3.5
一般機械	12.0	4.7	2.8	1.8	1.2
輸送機械	11.3	7.7	1.8	▲1.8	▲8.8
食品・たばこ	5.8	2.2	▲3.5	▲3.8	▲0.9
鉱工業	100.0	3.1	▲0.4	▲1.3	▲1.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

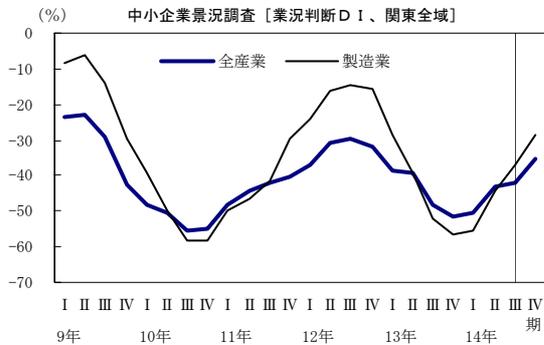
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考) 「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。12月は予測。



(備考) 「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。12月は予測。



(備考) 「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。14年IV期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (10月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「取引先で、情報化設備投資の削減が強く要望されており、今年度の情報設備構築が見送りになるケースや、規模が縮小されるケースが増加している (その他サービス業 [情報サービス])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

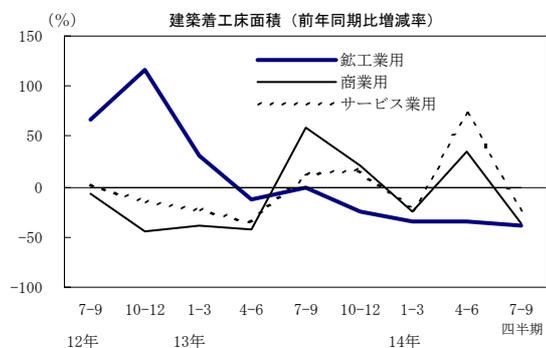
(3) 設備投資の14年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査、関東全域)]

(前年度比増減率、単位：%)

	13年度実績	14年度計画
全産業	2.4	▲2.0 (▲2.2)
製造業	▲5.6	▲10.0 (1.2)
非製造業	3.4	▲1.1 (▲2.6)

(備考) () は前回 (6月) 調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

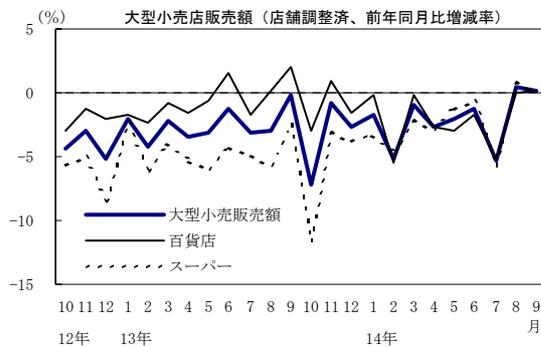
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、7月は曜日要因やクリアランスセールの前倒しによる反動、上旬の天候不順等から、季節衣料が伸び悩んだ。8月は下旬に残暑の影響もみられたものの、秋物の立ち上がりが順調など季節商品に動きがみられ、紳士服・洋品や身の回り品が増加した。9月はプロ野球の優勝セールの効果に加え、秋物衣料やアクセサリ、バッグをはじめとしたブランド品など身の回り品に動きがみられたことから、5か月ぶりのプラスとなった。

スーパーは、紳士服・洋品や飲食料品が好調だったことから、8月、9月と2か月連続のプラスとなっている。

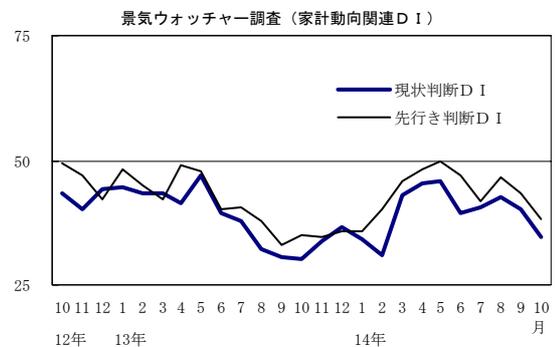
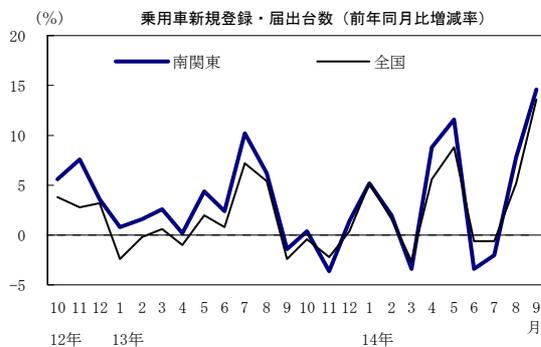
景気ウォッチャー調査（10月調査）[家計動向関連D I（現状判断）]

「部下を連れて来ることが多かった客が、1人で来ることが多くなっている。管理職は、会食手当や給料の削減で、小遣いが少なくなっている（スナック）」など、「やや悪くなっている」とする回答が多かった。



	（前年同期比増減率、単位：％）			
	13年10-12月	14年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	▲3.4	▲2.4	▲2.0	▲1.9
百貨店	▲1.2	▲1.6	▲2.4	▲2.0
スーパー	▲5.9	▲3.3	▲1.6	▲1.7
乗用車	▲0.7	0.3	4.8	6.4
景気ウォッチャー	33.6	36.0	43.5	41.2

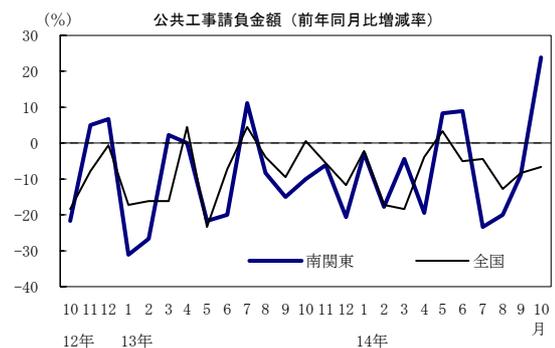
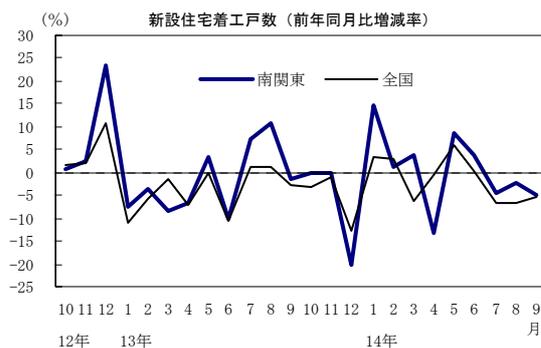
（備考） 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は緩やかに減少している。

貸家が前年を上回ったものの、持家、分譲が下回ったことから、緩やかに減少している。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

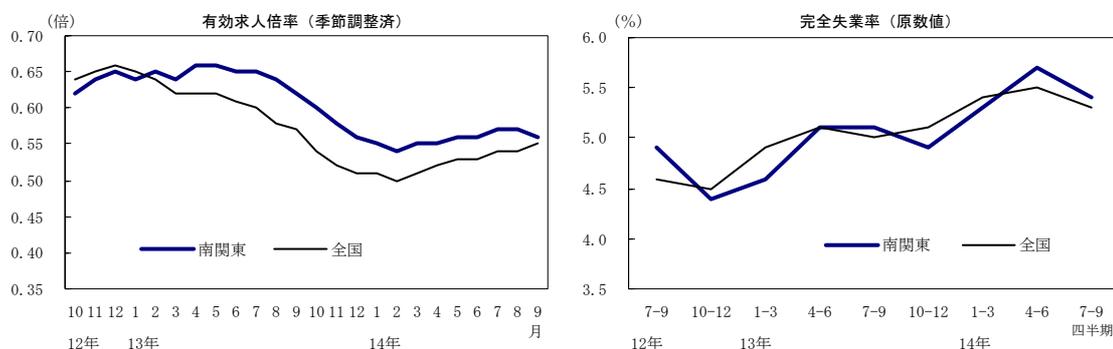


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は、前年同期を上回り、高い水準にある。



景気ウォッチャー調査（10月調査）[雇用関連（現状判断）]

「自然災害による損害保険会社の短期的な派遣需要がかなりあったが、その他の受注に関しては、単発的なものが多く、安定的な長期の受注が少ない（人材派遣会社）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	13年10-12月	14年1-3月	4-6月	7-9月	10月
倒産件数 (前年比)	1,554 13.8	1,589 22.1	1,467 5.6	1,439 7.6	508 1.0
負債総額 (前年比)	25,511 ▲71.8	23,476 19.1	14,201 40.9	13,701 28.1	11,616 217.7



○ 景気ウォッチャー調査（10月調査）[合計D I（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・当該地区において、ビルのリニューアル関連商品の売上が増加しており、営業部隊のフル稼働状態が続いている（電気機械器具製造業）。

<先行き>

- ・百貨店の主要顧客である40～50代向けの婦人服の売上が、軒並み大幅な減少となっており、気温の低下による冬物の動きにも、力強さが感じられない。百貨店の客層への株価下落の影響は大きく、先行きの不安感がぬぐえない（百貨店）。

